




2020年7月1日
ハレルヤ保育園

梅雨の季節は、湿度も高くじめじめした日が続いています。これからは梅雨も明け、日に日に暑さが増していき本格的な夏の到来となります。夏場は暑さのために体力を消耗しがちです。生活リズムをととのえ、夜は十分な睡眠をとるなど、日常の生活にも気をつけて、元気に夏を過ごしましょう。

知って防ごう！

夏に多い感染症

	おもな症状	治療と登園基準	家庭でのケア
手足口病	<p>口の中や手のひら、足の裏、ひじ、ひざ、おしりなどに細かい発疹や水疱ができます。38℃前後の高熱がでることもあります。続くことは通常ありません。コクサッキーウイルスやエンテロウイルスに感染して発症しますが、ウイルスによっては、無菌性髄膜炎や脳炎などの合併症を引き起こすことがあります。</p> 	<p>つらい症状をやわらげる対症療法が中心です。熱もなく元気で食欲もあるようならば、登園・登校が可能です。 (登園届が必要)</p>	<p>のどの痛みのため、水分や食事が取りにくくなることがあります。脱水症状を起こさないように水分補給を十分にします。刺激が少なく口当たりのよい食事を与えるようにします。おとなにも感染するので注意しましょう。</p>
ヘルパンギーナ	<p>急な高熱（38～40℃）が出て、2～3日続きます。のどに小さな水疱ができます。また、潰瘍をつくることもあります。のどが痛みますが、のどの痛みをうまく伝えられない乳幼児ではよだれが増え、食欲が低下し、不機嫌になるなどの症状が見られます。鼻水、くしゃみ、せきなどはほとんどありません。</p>	<p>特別な治療はありません。熱が下がり、口の中の痛みがなく全身状態が良ければ登園・登校が可能です。 (登園届が必要)</p>	<p>のどの痛みがうまく伝えられない乳幼児では、よだれが多いことも特徴のひとつです。のどの痛みにより、固形物を嫌がる時は、のどごしのよい食べ物や飲み物を与えます。熱が下がり、飲食が十分にできるようになるまで、家庭でゆっくり過ごしましょう。</p>
咽頭結膜炎（プール熱）	<p>高熱（39～40℃）が突然出て、のどの痛みとだるさを訴えます。頭痛、食欲不振、首のリンパ節の腫れがあらわれます。また目の症状では、充血や目やに、まぶしがるなどが見られます。熱は3～4日続き、全身症状が改善するまでに1週間程度かかります。</p>	<p><u>おもな症状がなくなってから、2日を経過するまでは登園・登校できません。</u> (医師の意見書が必要)</p>	<p>家庭では安静と保温を心がけ、十分な水分補給をします。食事はのどの痛みを刺激しない、のどごしがよいものにします。発症した時は、十分な期間自宅療養しましょう。</p>

保護者の皆様へ

- * 新型コロナウイルス感染症の予防の為に、保育園での入室の前には必ず手指消毒スプレーをお願いします。また登園前にご家庭でお子様の検温も続けてをお願いします。
- * お子様の爪が伸びていると、自分で引っ掻いて傷が出来たり、怪我の原因にもなりますので、3日に一度は点検をしていただき、伸びている時は爪切りをお願いします。

6月の感染症報告

とびひ 2件
突発性発疹 2件